

平成 31 年 4 月 12 日
小教委第 6100 号

一般財団法人 熊本放送文化振興財団
理事長 浅山 弘康 様

団体名 坂本善三美術館
住所 熊本県阿蘇郡小国町黒淵 2877
代表者 小国町長 北里耕亮



平成 30 年度下期助成実績報告書

平成 30 年度下期助成事業として助成いただいた下記活動について、関係資料を添えてその実績を報告いたします。

1. 事業名 んまつーポストと作る善三展「拍手し展！」
2. 収支報告 別紙収支報告書に記載
3. 事業実績 別紙活動報告書に記載

事業費の明細

収入	項目	金額	内訳
	入館料	506,240	坂本善三美術館入館料
	助成金	200,000	一般財団法人熊本放送文化財団 平成30年度下期助成
	収入計	706,240	

支出	項目	金額	内訳
	講師謝礼	700,000	んまつーポス謝礼
	印刷製本費	207,680	チラシ・ポスター、記録集
	消耗品費(一般)	62,471	
	通信運搬費	33,983	広報用DM便、資材運搬宅急便
	写真撮影・デザイン料	50,000	記録写真撮影
	会場設営費	200,000	ランウェイ作成料
	支出計	1,254,134	

活動報告書

- 助成事業名 んまつーポスト作る善三展 「拍手し展！」
- 期間 展覧会：2018年9月21日—11月25日
記録集作成：展覧会終了—2019年3月24日
- 入場者数 2833人
- 期間中イベント オープニングショー「拍手してん！」
小学校鑑賞体験教室
クロージングショー「もっと拍手してん！」

拍手し展!

Applause! はくしゅしてん!

2018.9.22-11.25

【本展の特徴】

ダンスで坂本善三作品を再解釈。新しいまなざしや価値観を開拓。
コレクション・リーディングの第3回目となる今年は、ダンスカンパニー「んまつーポス」をゲストに迎え、「絵に拍手を送ろう」というコンセプトのもと、ダンスで善三作品を再解釈したパフォーマンスの映像作品を善三作品とともに展示しました。

～展覧会チラシより～

絵だって拍手をもらいたい! (んじゃない?)

ダンスを見たり音楽を聴いたりした時はみんな拍手をするのに、壁に展示された絵を見て拍手することはほとんどありません。きっと絵を見たときにも、拍手を送りたいくらい心が動くことはあるだろうに。

いつもステージで拍手を浴びているダンスカンパニー「んまつーポス」は、善三先生の作品も拍手喝采を浴びるべきだと考えました。それがこの展覧会「拍手し展!」です。異ジャンルのゲストが当館の収蔵品を再解釈する展覧会シリーズ「コレクション・リーディング」として、今年は「んまつーポス」がダンスを切り口に善三作品を解きほぐしました。

彼らは、小国町の人々から、坂本善三の作品を見て思いつく体の動きを採集し、それをもとにダンス作品を制作。展覧会場で善三作品とともにその映像を展示します。

「絵を見る」という行為は、静かに脳内で完結するものと思いがちですが、絵を見たときの心の動きは本当はずっとアクティブで、ある時は爆発的に、ある時はひっそりと、ある時は柔らかく、ある時はずっしりと、体をも動かそうとしているのではないのでしょうか。

いつもは絵の前に静かにたたずむあなたの体も、この展覧会では思わずピクリと動いてしまうかもしれません。もしそんな絵に出会えたら、ぜひ拍手を送ってあげてください。

「はくしゅしてん」とは、小国弁で「拍手してごらんよ!」という意味。んまつーポスの活動拠点・宮崎でも使う方言です。

【コレクション・リーディングとは】

異ジャンル・異業種とのコラボによる収蔵品の魅力開拓

業種を越えて美術館をプロデュースするゲストを招き、収蔵品を様々な角度から解釈し直す展覧会のシリーズ「コレクション・リーディング(コレクション再解釈)」。異ジャンル・異業種とのコラボレーションを通して、収蔵品の新たな魅力を発見し、これまで気づかなかった美術館の可能性を発掘することを目指しています。

小国町(おぐにまち)は、阿蘇・北外輪山のふもとに位置し、周囲を杉山に囲まれた人口約7300人の小さな町です。同町出身の画家坂本善三の作品は、小国町の町民にとって「われらが善三先生」の作品であり、大切に受け継いでいきたいものである一方、これまでに見たことなかった善三作品の姿を見たいと期待されているものでもあります。ジャズの名曲が演奏者によって次々と新しい姿を見せるように、今を生きるアーティストの感性が加わることによって収蔵品が新しい価値をもって立ち現われてきます。本企画は、アーティストと住民が一緒になって坂本善三作品を現在のまなざしで解釈することによって、収蔵品が新たに新たな価値とともに生まれ変わり続けることを目指しています。

本展は、コレクション・リーディングの第3弾として、ダンスカンパニー「んまつーぽす」をゲストに迎え、ダンスを切り口にして新たな目線で坂本善三を見つめなおした展覧会です。



【どのように展覧会は作られたか】

収蔵品を核にしたアーティストと住民の想像力の交差

映像作成に当たって彼らは、当館収蔵品から7点を選びだし、小国らしい職業や場所7か所でそれぞれの作品を見てもらい、そこで出会った人々が作品から思いついた体の動きを採集。それを構成して7つのダンス作品を制作、出来たダンス作品を取材地に行ってパフォーマンスし撮影しました。

1つの作品につき10人以上の人々から動きを集め、最終的に出会った人々はおよそ80名。農家、役場、森林組合、観光地、中学生など、ジャンルや年齢を超えた多数の人とともに、絵から始まる交流を行い、絵についての感想、ダンスについての感想を交し合いました。

制作はこのように進みました(小国町役場のケース)



坂本善三美術館の収蔵作品
この絵を小国町役場職員に見てもらいます。

アーティストと一緒に作品を見る at 役場



迷路に
見えるなー

自分の感想を体で表現してみる



役場庁舎で撮影



住民の感想から生まれたダンスを
アーティストが作品に。

迷路に
迷ってる
感じかなー

迷路って
動きにすると
どんな感じ
ですか？

へー、
この絵をこんな風
見たんだ

わたしは
こう思うわ

僕は
こう思うな

善三先生の絵が
なんだか身近に感じるな。
こういう風に見て
いいんだな すごくおもしろい！

知ってる絵がなんだか
すごく新鮮！



美術館の展覧会で映像として展示。

誰かの想像力によってみんなの想像力がどんどんふくらみます。

7つの絵からダンス作品(ができるまで)



作品名：「対」(1976年 リトグラフィ)

振付家：小国町役場のみなさん

撮影地：小国町役場庁舎2階

この絵からイメージされたキーワード

迷路 川 滝 ひねり

怒り 山 五輪マーク など



川の流れかな。



怒りを表現したいです！



ひねりです。もっとひねって！



作品名：「水墨抽象」(1985年 水墨)

振付家：ジャージー牛・畜産農家のみなさん

撮影地：岳はげ牧野組合

この絵からイメージされたキーワード

海老の天ぷら 杉木立 クリスマスツリー

炎 鯉の群れ など



80のばあさんじゃからなー
こら海老のごたる！(笑)



杉木立！
そうそう
もっとピンと！



炎がメラメラ
燃えてる感じかな。



作品名：「象」(1981年 油彩)

振付家：小国町森林組合のみなさん

撮影地：小国町森林組合木材共販所

この絵からイメージされたキーワード

鳥の羽毛 無 乱れ

網の中で魚が跳ねている など



羽がひらひら～



ざざーって感じ。



爆発してる！



作品名：「集」(1982年 リトグラフィ)

振付家：鍋ヶ滝のみなさん

撮影地：鍋ヶ滝

この絵からイメージされたキーワード

蟻の行列 スイカの種 点字ブロック

石垣 文字 水滴 萩の花 など



スイカの種が
びゅーっ！



カラスの群れみたい。



こら、萩の花ばい。
上から落ちてきよる。



作品名：「風」(1985年 リトグラフィ)

振付家：杖立温泉のみなさん

撮影地：杖立温泉

この絵からイメージされたキーワード

杖立川の流れ 川の流れと石 蒸気

寿 わ ゆったりした流れ など



杖立川と蒸気～
ゆらゆらってね！



ひらがなの「わ」みたい。
そうそう、そんな動き！



ドローンが
飛んでいく～



作品名：「黒の構成」(1982年 油彩)

振付家：涌蓋温泉郷のみなさん

撮影地：岳の湯温泉

この絵からイメージされたキーワード

急な雨 鮎 迷路 心電図

パックマン 傘をさす雨 など



心電図が
ぴーっと伸びて・・・



ラビリンスってこう？



体の上に
迷路があるんだよ



作品名：「水墨抽象（絶筆）」（1987年 水墨）

振付家：小国中学校1年生のみなさん

撮影地：小国中学校&坂本善三美術館

この絵からイメージされたキーワード

飛行機雲 蛇 龍 鳥の翼 しっぽ

切れたロープ 細い道 なれの果て など



みんなこの絵を見て思いつく
キーワードを書いてみよう



私の動きは
こんな感じ。

へ～
なるほど！



みんなで考えた動きでダンス。
短い時間でここまでできて
うれしかったなー。

【本展の工夫】

ともすれば「わかりにくい」「敷居が高い」と言われがちな抽象作品を収蔵する館として、地域の人々に善三先生が愛され続けていくために、本展は、現代の私たちの目とおしてみんなで楽しく善三先生の作品を解釈することを目指しています。

「こんなこと言ったら恥ずかしいかな」「間違ってるんじゃないかな」「自分は素人だから・・・」などよく言われることがあります。しかし、「感想をを体で表現する」という今までにない表現を挟むことによって、正解/不正解、わかる/わからない、といった二者択一的な見方から解放され、率直な感想が人々からあふれてきました。

鑑賞とはそもそも、個人的な経験や人生と密接に絡み合い、そこから生まれてくる心の動きであるはずですが。そこにダンスが加わることによって、人々の素直な心の動きを美術的な「知識」や「正解」で遮ることなく自由に引き出すことができました。

そして、その率直な感想に基づいて、本展のダンス作品は生まれました。つまり、絵画を見たときの誰かの心の動きが目に見える形になっているのです。これは、「鑑賞」が鑑賞しうるということを示した、新しい形の展覧会だと思えます。

【本展の意義】

1. 地域の人々がアーティストとともに収蔵作品を読みなおす展覧会。

アーティストとの交流によって、自由な見方、素直な感想を持つことの喜びを感じる。
今回はダンサーと体で表現することによって、単なる感想が想像/創造へと変化した。

2. 収蔵品が時代を超えて新たな価値を生み出し続けるための展覧会。

現代に生きる私たちのリアルな感想と作品が結びつくことによって、作品が新たな側面を持って輝き始め、過去には思いもつかなかった新しい価値が、現代の私たちによって生み出される。

3. 収蔵品を通して、さまざまな人々の想像力を共有しあえる展覧会。

作品に対して表現された誰かの率直な感想は、さらに誰かの率直な感想を引き出す。
評論家やアーティストではない人々の想像力は、別の誰かの想像力を刺激する力を持つ。
自分とは違う想像力で表現されたものを見、聞き、共有することは、人間の根本的な喜びでもあり、希望へとつながるものである。

【本展の効果】

☆多くの町民のみなさんを巻き込むことができた

絵から動きを出してくれた人	約 80 人
鑑賞教室に参加してくれた人	約 300 人
オープニング・クロージングショーに来てくれた人	約 150 人

☆マスコミに取り上げられた

NHK 教育「日曜美術館」（期間中に撮影 美術館全体の様子が放映された）
熊本日日新聞
宮崎日日新聞
朝日新聞

坂本善三美術館コレクション・リーディングvol.3 んまつーボスと作る善三展

拍手し展!

Applause! はくしゅしてん!

2018.9.22-11.25

記録写真集

んまつーポス×小国町民 絵から動きを集めている様子





んまつーポス×小国中学生
ワークショップで動きを集める



「善三先生も
びっくりダンス」
(映像作品より)

「対」



小国町役場

「集」



鍋ヶ滝

「水墨抽象」



岳はげ牧野組合

「象」



小国町森林組合



杖立温泉



「風」



岳の湯温泉



「黒の構成」



小国中学校



「水墨抽象
(絶筆)」



坂本善三美術館
小国中学校7年生



「水墨抽象
(絶筆)」

オープニングショー 「拍手してん!」 2018.9.21. pm18:00 坂本善三美術館展示棟





展示風景



展示風景



小国小4年生鑑賞体験教室

平成16年以来、んまつーポスは毎年小国小学校4年生を対象にしたワークショップ※1を行っており。毎回そのうちの1日は当館で鑑賞とリンクしたワークショップを行っている。今年は「拍手し展!」を鑑賞したあと、んまつーポスと一緒に善三作品をもとにしたダンス作品を制作し、グループごとにミニ公演を行った。

※1文化庁「文化芸術による子どもの育成事業(芸術家の派遣事業)」





photo by 西純之助

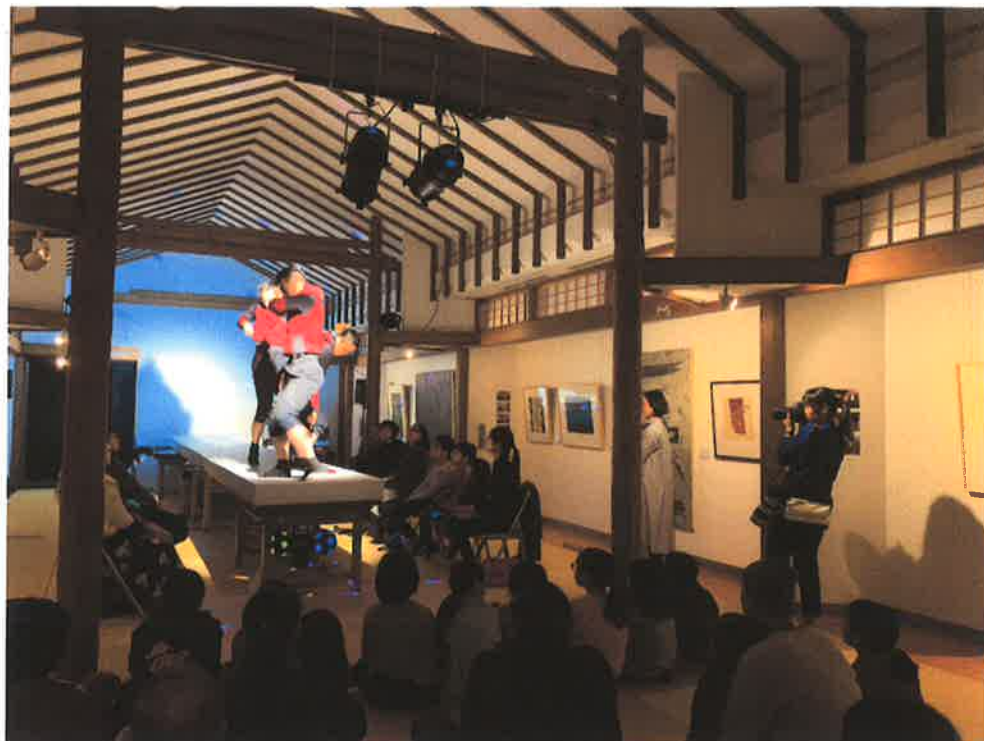
photo by 西純之助

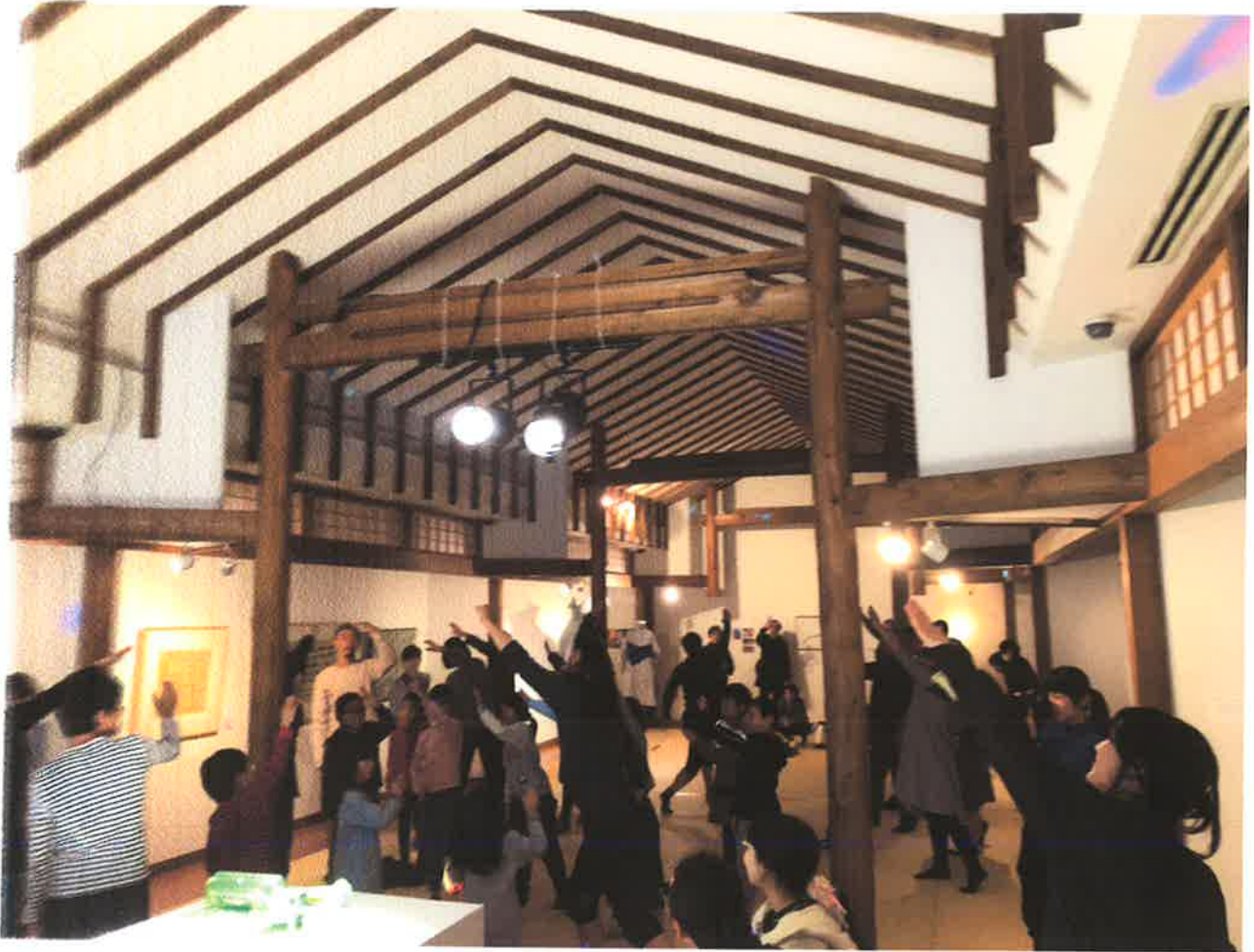


photo by 西純之助

photo by 西純之助

「拍手し展！」
クロージングショー
2018. 1. 25





作品から連想 ダンスで表現

熊本・坂本善三美術館「拍手し展」



展示室内にできたランウエーを「絵画」が歩き、観客から拍手を受けた

絵画を見た地元住民の感想をもとにダンスを創作し、作品として展示するというユニークな企画展「拍手し展！」が、熊本県小国町の坂本善三美術館で開かれている。

抽象画家だった坂本善三（1911〜87）の作品を集めた同美術館では、収蔵品を新たな切り口で再解釈する「コレクション・リーディング」シリーズを2016年からスタート。3回目となる今年は、宮崎を拠点に活躍する3人組のダンスユニット「んまつーポス」を招いて企画した。

豊敷きの会場に坂本の作品約30点を展示し、「んまつーポス」らが出演する映像を上映。

ダンス作品は、町民約80人に絵の感想を聞いて回り、連想してつくったオリジナルだ。

9月下旬の開幕前日にあつた「んまつーポス」のパフォーマンスでは、「絵画」を持ったメンバーがランウエーを歩き、観客から拍手喝采を受ける一方、一筋の線が描かれた坂本の絶筆「水墨抽象」の前では、体をくねらせたり、綱引きのようなしぐさをしたりと、作品の魅力をダンスで表現する試みもあつた。

収蔵品を工夫して見せる取り組みは各地の美術館で行われているが、山下弘子学芸員は「ジャズの名曲がカバーされ時代を超えて愛されるように、絵画も今の感性で見直し、新しい世代に受け継がれれば」と話す。

25日まで。同日午後4時からクローキングショーがあり、「んまつーポス」が再びパフォーマンスを披露する。（安齋耕一）

H30.11.8付 宮崎日日新聞
 んまつーポス(宮崎市)合同企画



絵画を見た感想をダンス作品にして展示する「拍手し展！」。開会に合わせ、宮崎市のダンスユニット「んまつーポス」のショーもあつた

絵画の感想ダンスで表現

地域住民が絵画を見て語った感想を、ダンス作品に変換して展示するという異色の展覧会「拍手し展！」が、熊本県小国町の坂本善三美術館で開かれている。25日まで。

同館は同町出身の抽象画家、坂本善三(1911~87)らの作品約千点を収蔵する。本県の方言をもじつた「拍手し展！」は、収蔵品の新たな解釈を試みようと、宮崎市のダンスユニット「んまつーポス」と合同で企画した。

熊本の美術館で展覧会 25日まで

ダンス作品はまず地域住民約80人に取材し、坂本の抽象画を見て直感的に思い浮かべた「体の動き」を収集。これを基に同ユニットや地元の中学生在が出演する映像(約16分)を製作した。会場では映像を流し、住民が見た抽象画など坂本の遺作約30点を並べている。

例えば、一筋の線が引かれた坂本の絶筆「水墨抽象」のダンスは、出演者が綱引きに似た動作を始めた後、蛇のように腕を脈打たせたりする。

同館の山下弘平学芸員は「一般の人が坂本の絵に抱く率直なイメージがダンスによって可視化された。来場者からは『坂本作品を]分かりやすく鑑賞できた』という反応もある」と話す。

最終日の25日午後4時からはクロージングショー「もつと拍手してん！」を開催。んまつーポスが会場でパフォーマンスする。入館料は500円、高校・大学生400円、小中学生200円。日曜休館。同館 ☎0967(46)5732。

(杉田亨一)



坂本善三美術館コレクション・リーディングvol.3 んまつーボスと作る善三展

拍手し展!

Applause! はくしゅしてん!

会期 2018年9月22日(土) - 11月25日(日)

オープニングショー 9月21日(金) 18:00

※展覧会初日ではありません。ご注意ください。

クロージングショー 11月25日(日) 16:00

会場 坂本善三美術館

〒869-2502 熊本県阿蘇郡小国町黒淵2877 tel:0967-46-5732

<http://www.sakamotozenzo.com/>

開館時間 9:00-17:00 休館日:月曜日(祝日の場合は翌火曜日)

主催:坂本善三美術館

企画:んまつーボス+坂本善三美術館

演出:高橋るみ子 衣装:樺島優子 会場制作:坂崎隆一

映像制作:西純之介 ドキュメンタリー制作:株式会社エフエム小国

協力:一般社団法人namstrops NPO法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER